

#### 治水と利水のはざま

江戸開府までの利根川は、埼玉県羽生市付近から久喜市栗橋周辺で乱流、東京湾に流下する暴れ川でした。そのため幕府は江戸の利水と治水を兼ねた「利根川東遷（流路を東方向に変更）」事業を進めます。

しかし、利根・常陸川（現利根川下流部）間の台地を開削・通水させた荒療治ゆえに溢水の頻発を招くことになり、利根川北部の低地に広がる古河藩領村に莫大な損害をもたらしかねませんでした。

#### 弘化の水害と古河藩

江戸時代の三大水害に数えられる弘化3（1846）年の洪水では、次のような古河藩の関係者による緊迫した現況報告が記録に残っています。

6月18日（新暦8月9日）栗橋、利根川水位1丈6尺6寸（約5m3cm）。日光道中利根川の渡船場、房川の渡しに川留め、江戸と古河の陸路を結ぶ通信手段が絶たれ

る。20日夜、下宮村と恵下野村（遊水地付近）で破堤。24日、堤が切れて中田と中田新田一面が水没。夕刻強い雨で栗橋の水位1丈8尺6寸（約5m64cm）、9時頃、中田宿裏の堤が決壊。江戸川の堤から流入して二合半領（埼玉県吉川・三郷市）一円水没。25日、船渡河岸（旧三國橋付近）の水位上昇し1丈8尺7寸（約5m67cm）。この間、藩領各所で決壊の報告多数。

28日17時頃、古河城付近の水位1丈8尺（約5m45cm）、二ノ丸御殿の役所を片町（西町付近）の藩士屋敷に移設。10時頃1丈9尺5寸（約5m91cm）まで水位上昇、悪戸新田の堤が壊れ、片町でも土俵を積んで防ぎ留める。29日16時頃、城内に水が越流。同日、綾瀬川決壊のため千住宿（足立区北千住付近）問屋場最寄り一円に浸水し、日光道中および水戸道中の人馬継ぎ立て不能となる。

7月1日（新暦8月22日）、猿江屋敷（土井家江戸中屋敷、江東区猿江）周辺の水位が上がりはじめて居住者避難。同日16時頃、悪戸新田の堤が壊れ、片町でも土俵を積んで防ぎ留める。29日16時頃、城内に水が越流。同日、綾瀬川決壊のため千住宿（足立区北千住付近）問屋場最寄り一円に浸水し、日光道中および水戸道中の人馬継ぎ立て不能となる。

7月1日（新暦8月22日）、猿江屋敷（土井家江戸中屋敷、江東区猿江）周辺の水位が上がりはじめて居住者避難。同日16時頃、悪戸新田の堤が壊れ、片町でも土俵を積んで防ぎ留める。29日16時頃、城内に水が越流。同日、綾瀬川決壊のため千住宿（足立区北千住付近）問屋場最寄り一円に浸水し、日光道中および水戸道中の人馬継ぎ立て不能となる。

田・伊賀袋の堤、古河城を守る中堤2カ所が切れて城内浸水のため、城郭内の屋敷から水宿（城外の商家に割り振られた避難場所）へ待避。5日8時頃、房川の渡し18日ぶりの再開も、8日、古河1丈8尺5寸（約5m61cm）、中田1丈9尺（約5m76cm）に増水のため11時頃より再度川留め。9日、亀戸（江東区亀戸）で堤が切れて猿江屋敷の一部が床上浸水。房川の渡し1丈9尺9寸5分（約6m4cm）まで増水。11日（新暦9月1日）、川明け時期未定ゆえ非公認の中渡（栗橋上流の渡船場）の利用を通過。12日ようやく川明け。

#### 古河藩の激甚災害

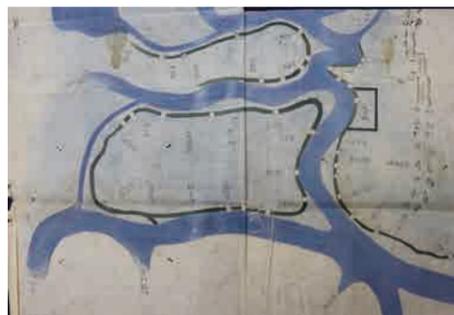
さて、河川の増水が落ち着いても、田畑に貯留する悪水が農作物へ与える被害は甚大でした。幕府へ報告された藩の損毛高（農作物の被害）は4万石にも及んだとい

い、その数字は実に関東の古河藩領における作物8割の損失を意味しています。あまりに大きい損害から、低湿地の川部・谷中郷の

上知（幕府に領地を返上すること）まで取り沙汰される、まさに激甚災害というものでした。

ことしも打ち続いた異常気象、今後も予想される想定外の豪雨災害。収穫前、風に揺れる黄金の稲穂を見ていると、自然との関わり方をあらためて考えさせられるばかりです。被災地の皆様に一刻も早く平穏な日常生活が戻ることを心より祈念してやみません。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦



▲重要文化財「古河城周辺堤塘切所絵図(部分)」古河歴史博物館蔵

#### 【児童書/読み物】 こども西郷どん

齋藤孝 著  
明治維新の立役者、西郷隆盛は、思いやりや勇気があり、スケールの大きな生き方をした人だった。「敬天愛人」「兒孫のために美田を買わず」など西郷の残した言葉を、動物イラストとともにわかりやすく解説する。

出版社…草思社

#### 【絵本】 ハルの日

渡辺眞子 文  
子犬の兄弟が三匹、公園に捨てられました。男の子に拾われ、「ハル」と名づけられた一番小さな子犬。だんだんからだが大きくなると、外につながれるようになりました。そしてある日、おかあさんに捨てられてしまい…。

出版社…復刊ドットコム

## 図書館の本棚から



古河図書館

#### 【一般書/エッセイ】

一日の苦勞は、その日だけで十分です

三浦綾子 著

人間の罪、弱さ、ゆるしを描き続けた作家が遺した、愛にあふれる言葉の数々。知人や北海道のことから、恋愛と結婚、がん告知からの生き方、信仰についてまで綴る。

出版社…小学館

#### 【一般書/小説】

キネマトグラフィカ

古内一絵 著

老舗映画会社に新卒入社した「平成元年組」6人の男女が、2018年春ある地方の映画館で再会する。今はそれぞれの道を歩む彼らは、思い出の映画を鑑賞しながら26年前の「全国フィルムリレー」に思いを馳せ…。

出版社…東京創元社



提供：鈴木路雄氏

鍛冶町通りとJR宇都宮線が交差する踏切の、昭和30年代の様子です。今では高架になっているJR宇都宮線は、昭和59年まで踏切のある線路を電車が走っていました。手回し式の踏切や車の形、まちの風景からは、まるでジオラマのような雰囲気を感じます。

## 古河 今昔物語 Time Travel Photograph

